

# 大きな役割

2012

## 世界ICTカンファレンス

Global ICT Conference 第3回

社会インフラと企業を変えるICTのイノベーション

企業や社会を変革する原動力として情報通信技術（ICT）への期待が高まっている。こうした中、「世界ICTカンファレンス2012」（第3回）「社会インフラと企業を変えるICTのイノベーション」が7月26日に開催された。主催は日本経済新聞社、後援は総務省、協賛は日本アイ・ピー・エム、システムズ、ワイエムウェア。ICTでいかに企業や社会が抱える課題を克服し、さらなる成長に導くのかをテーマに、さまざまな視点から議論が展開された。本特集では講演概要を紹介する。

### 基調講演

#### 21世紀型社会インフラへのICT業界の戦略と貢献



東京大学大学院  
情報理工学系研究科  
教授

江崎 浩氏

江崎氏は、21世紀型のICTは「全産業のスマート化&統合」という大きな役割を担っている。そこではインターネットはデジタル情報が透明に流通する「コモンズ」の環境を提供する基盤となり、すべてのデジタル

と、イノベーションの継続ができないからだ。今、スマートグリッドに

自律的に節電アクションを取れるインフラの設計・運用形態を採用したことが奏功した。その結果、節電にとどまらず、活動継続性、問題解決の迅速化という予期しない効果が得られた。

日本は今後数年間、スマートなエネルギーインフラの構築を目指して努力を続ける必要がある。それはやがて世界最高品質の社会インフラへと昇華されるだろう。これが自立・自律したコンピューターネットワークと共に社会の持続的革新を進め、日本の国際競争力を高めていくことを期待している。

20世紀においてインターネットは「IP for Everyone」、つまり「人」と「人」をつなぐところからスタートした。したがって世界の人口分ぐらのアドレスがあれば事足りた。

ところが21世紀の今は「Internet of Things」、すなわち「もの」と「もの」と「人」をつなぐ方向へと完全にシフトしている。それ

に伴い、ICTシステムは「セパレート、フィックス、ワイヤード」から「ネットワーク、モバイル、ワイヤレス」へと、その性格を変えつつある。

日本では2006年時点においてICT産業が国内総生産（GDP）に占める割合は約9・4%に過ぎな

## ICTネイティブを基本に

情報の共有と利用を実現する責任を持つ。

ICT業界にはそのための選択肢の提供（モジュール化）が求められる。換言すれば、インターフェースのオープン化・デファクト化が欠かせない。常に新しい技術をきちんと取り込める構造にしておかない

る。そこで重要なのが、ICTシステムが自立していること。さらに自律分散型でいかに稼働させるかが非常に重要となる。

昨夏、東京大学では電力使用量の「見える化」やコンピューターのクラウド化などで大幅な節電に成功したが、その過程では各人が

今こそ皆で知恵と勇気をもってICTネイティブなデザインで21世紀型の社会インフラを創っていかねばならないだろう。

